

令和3年度  
事業報告書

自 令和3年4月1日  
至 令和4年3月31日

公益財団法人 全日本科学技術協会



## 目次

I. 総務	1
1. 役員（令和4年3月31日現在）	1
2. 評議員（非常勤）	1
3. 組織図	2
4. 基本財産	2
5. 出損自治体等	2
6. 賛助会員	2
7. 事務所（主たる事務所）	2
8. 理事会の開催	3
9. 評議員会の開催	3
II. 事業の推進	5
1. 事業の概要	5
1) 事業収益	5
2) 事業の概要	6
2. 自主事業	7
1) 第29回地域を活かす科学技術政策研修会の開催	7
2) 令和3年度科学・技術・産業振興関係者名簿の作成	9
3) JARECの賛助会員へのサービス事業	9
4) イノベーションを牽引する創造型企業の経営幹部による朝食交流会事業	10
5) 知的財産の戦略的活用研究会事業／「知的財産力」養成・強化プログラム	11
3. 調査・研究事業	12
1) 次世代創造型企業のための企業所属産学連携人材の育成プログラムに必要な要素の調査	12
2) SDGs達成に向けたデータベース構築のための大学等研究成果の調査	12
3) 線状降水帯等による集中豪雨（極端気象）災害の低減可能性に関する調査	12
4) コア技術に基づくインパクトある成功モデル創出に向けた施策のあり方に関する調査	12
4. 研修会・研究会事業	14
1) 2019年度技術移転に係わる目利き人材育成プログラムの運営	14



## I. 総務事項

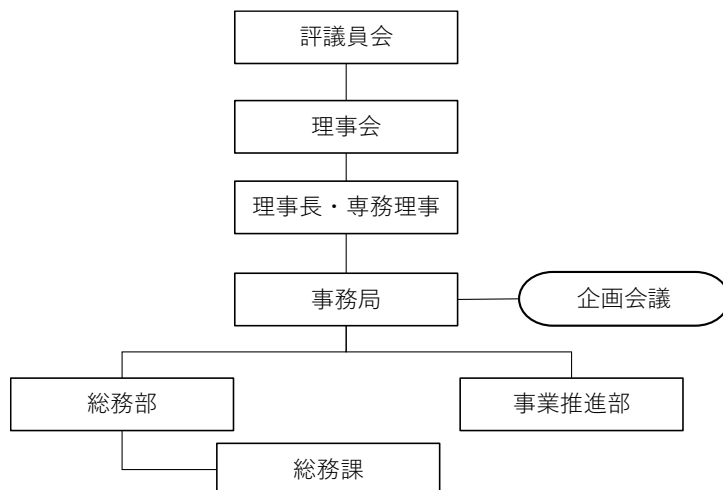
### 1. 役員（令和4年3月31日現在）

理事長 (代表理事)	沖村 憲樹	国立研究開発法人科学技術振興機構 名誉理事長
理事長 (業務執行理事)	沖村 憲樹	公益財団法人全日本科学技術協会 事務局長
理事	倉迫 昭宏	広島県東京事務所 次長
	久留島 守弘	東洋大学 国際学部 客員教授
	児玉 柳太郎	一般財団法人新技術振興渡辺記念会 顧問
	坂之上 悦典	京都府中小企業技術センター 所長
	鈴木 久美子	公益財団法人全日本科学技術協会 総括主任研究員
	谷田 清一	公益財団法人京都高度技術研究所 地域産業活性化本部 京都市ライフイノベーション 創出支援センター アドバイザー
	筒井 宣政	株式会社東海メディカルプロダクツ 会長
	西川 明之	公益財団法人くまもと産業支援財団 総務部 部長
	西山 英作	一般社団法人東北経済連合会 理事 産業経済部長
	林 聖子	亜細亜大学 都市創造学部 教授
	綿貫 啓一	国立大学法人埼玉大学大学院理工学研究科 戦略的研究部門 感性認知支援領域 領域長・教授
監事（非常勤）	菅谷 行宏	株式会社アイ・エス・シー 代表取締役社長
	村田 朋美	公立大学法人北九州市立大学 国際環境工学部 名誉教授

### 2. 評議員（非常勤）

	石塚 悟史	国立大学法人高知大学 副学長（地域連携担当） 次世代地域創造センター長 教授
	齊藤 仁志	国立研究開発法人 科学技術振興機構 副理事
	塚本 芳昭	一般財団法人バイオインダストリー協会 専務理事
	中根 一明	国立大学法人茨城大学 監事
	馬來 義弘	地方独立行政法人神奈川県立産業技術総合研究所 主席コーディネータ
	松井 繁朋	兵庫県立工業技術センター 特別顧問
	向殿 政男	公益財団法人鉄道総合技術研究所 会長
	渡邊 慎介	国立大学法人横浜国立大学 名誉教授

### 3. 組織図



### 4. 基本財産

ご出捐金額	700,000,000 円
簿価（時価評価額）	<u>615,215,000 円</u>

### 5. 出損自治体等

14 地方自治体（1 公益財団含む）

### 6. 賛助会員

（50 音順）令和 4 年 3 月末現在

株式会社 IHI 株式会社アルバック 株式会社アテクト 岩谷産業株式会社  
株式会社エヌアンドエヌ 英弘精機株式会社 株式会社エリオニクス  
株式会社エア・リキード・ラボラトリーズ 応用光研工業株式会社  
株式会社オプトニクス精密 大崎電気工業株式会社 株式会社オプティマイザー  
国立研究開発法人科学技術振興機構 公益社団法人科学技術国際交流センター  
株式会社加速器エンジニアリング 地方独立行政法人神奈川県立産業技術総合研究所  
グローバルマイクロニクス株式会社 株式会社クレハ  
神戸天然物化学株式会社 株式会社サウマネジメント 三和澱粉工業株式会社  
株式会社潮見サービス 新川電機株式会社 セントラル硝子株式会社  
綜研化学株式会社 田中貴金属工業株式会社 中央電子株式会社 株式会社テクノ菱和  
東京応化工業株式会社 TOTALMASTERS 株式会社 豊通りサイクル株式会社  
ナルックス株式会社 日本重化学工業株式会社 日本電波工業株式会社  
株式会社パイロットコーポレーション 株式会社フジクラ 株式会社フルヤ金属  
株式会社放電精密加工研究所 三井化学株式会社 三菱マテリアル株式会社  
山科精器株式会社 株式会社レイマック  
一般財団法人新技術振興渡辺記念会 株式会社渡邊製作所  
以上 43 機関 個人会員 2 名

### 7. 事務所（主たる事務所）

〒113-0034 東京都文京区湯島 3 丁目 31 番 6 号 大塚ビル 1 階  
TEL：03-3831-5911 FAX：03-3831-7702  
URL：<http://www.jarec.or.jp>

## 8. 理事会の開催

<第24回通常理事会>

日 時：令和3年5月26日（水）15時00分～17時00分

場 所：オンライン開催

理 事：総数12名の内

理事長 沖村 憲樹

専務理事 久留島 守広

理事 木戸 一博、黒須 成弘、児玉 柳太郎、鈴木 久美子、  
谷田 清一、筒井 宣政、西川 明之、西山 英作、綿貫 啓一  
以上11名の議決

監 事：菅谷 行宏、村田 朋美 以上2名

事務局：総務課長 鶴見 正幸、主任研究員 木村 徳孝、同 大門 雅明 以上3名

(議題)

第1号議案：令和2年度事業報告書（案）及び同財務諸表・附属明細書・財産目録（案）  
について

第2号議案：次期役員（理事及び監事）候補者の推薦（案）について

第3号議案：次期評議員候補者の推薦（案）について

第4号議案：第二十回定時評議員会の開催（案）について

第5号議案：事務局長の選任について

以上につき、異議無く了承された。

<第25回通常理事会>

書面審議とし、公益財団法人全日本科学技術協会 理事長 沖村 憲樹が令和2年6月15日付けで提案をした以下の二つの議案につき、それぞれ議案ごとに、理事15名全員が書面により同意の意思表示をし、また、監事2名両名が書面により異議の無いことを意表示した。

第1号議案：沖村憲樹 理事の理事長（代表理事）選定について

第2号議案：評議員候補者の推薦について

以上につき、異議無く了承された。

<第26回通常理事会>

日 時：令和4年2月24日（木）15時00分～16時30分

場 所：オンライン開催

理 事：総数14名の内

理事長 沖村 憲樹

理事 倉迫 昭宏、久留島 守広、児玉 柳太郎、鈴木 久美子、谷田 清一、  
筒井 宣政、林 聖子、綿貫 啓一 以上9名の議決

監 事：菅谷 行宏、村田 朋美 以上2名

事務局：総務課長 鶴見 正幸、主任研究員 小澤 昌之、同 大門 雅明、  
同 木村 徳孝、同 齋藤 太郎 以上5名

(議題)

第1号議案：令和4年度事業計画書（案）並びに同収支予算書（案）及び資金調達・設備

投資の見込み（案）について

第2号議案：新任理事候補者の推薦（案）について

第3号議案：第二十二回臨時評議員会の開催（案）について

以上につき、異議無く了承された。

## 9. 評議員会の開催

<第二十回定時評議員会>

日 時：令和3年6月15日（火）15時00分～16時30分

場 所：オンライン開催

評議員：総数9名

青田 嘉光、石塚 悟史、齊藤 仁志、塚本 芳昭、馬來 義弘、  
松井 繁朋、増子 千勝、向殿 政男、渡邊 慎介 以上9名の議決

理 事：3名出席

代表理事（理事長）沖村 憲樹、（専務理事）久留島 守広、（理事）鈴木 久美子

監 事：2名出席

菅谷 行宏、村田 朋美 以上2名

事務局：5名出席

小澤 昌之、大門 雅明、木村 徳孝、齋藤 太郎 以上、主任研究員4名  
（総務課長）鶴見 正幸

第1号議案：令和2年度事業報告書（案）及び同財務諸表・附属明細書・財産目録（案）  
について

第2号議案：評議員候補者の選任について

第3号議案：理事及び監事候補者の選任について

以上につき、異議無く了承された。

<第二十一回臨時評議員会>

書面決議にて、令和3年7月16日に理事長 沖村 憲樹より提案された下記議案は評議員  
7名全員の同意により、議決された。

第1号議案：新任評議員の選任について

<第二十二回臨時評議員会>

日 時：令和4年3月15日（火）15時00分～16時30分

場 所：オンライン開催

評議員：総数8名

石塚 悟史、齊藤 仁志、塚本 芳昭、中根 一明、馬來 義弘、  
松井 繁朋、向殿 政男、渡邊 慎介 以上8名の議決

理 事：2名出席

代表理事（理事長）沖村 憲樹、（理事）鈴木 久美子 以上2名

監 事：2名出席

菅谷 行宏、村田 朋美 以上2名

事務局：5名出席

小澤 昌之、大門 雅明、木村 徳孝、齋籐 太郎 以上、主任研究員4名  
(総務課長) 鶴見 正幸

第1号議案：令和4年度事業計画書(案)及び同収支予算書及び資金調達・設備投資の見込み(案)について

第2号議案：新任理事候補者の選任について

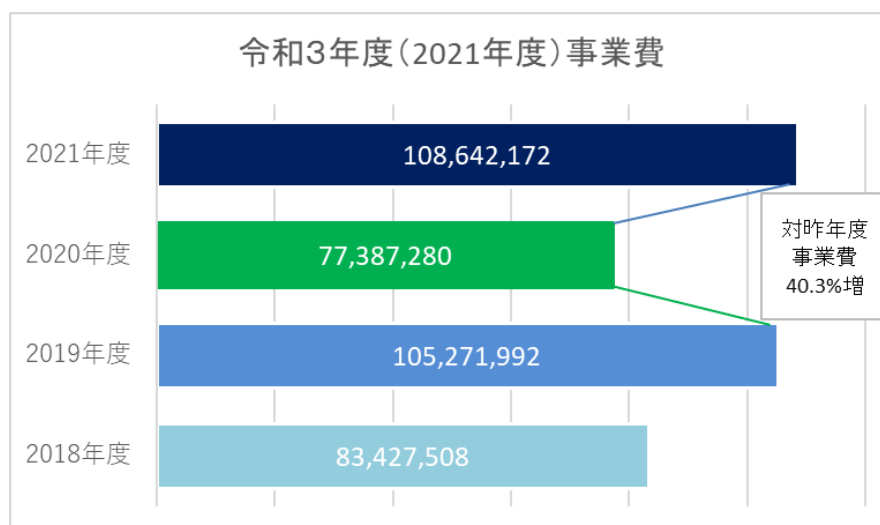
以上につき、異議無く了承された。

## II. 事業の推進

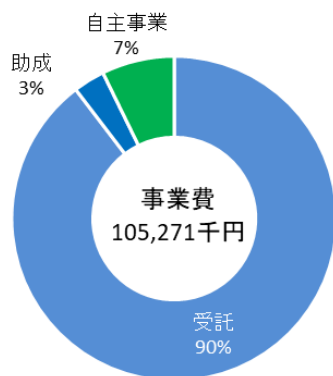
### 1. 事業の概要

#### 1) 事業収入

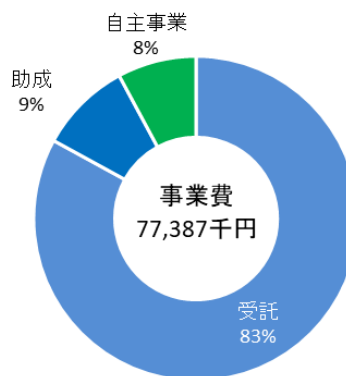
令和3年度の事業収入は、108,642千円であり、前年度（77,387千円）に比べ31,225千円の増額（40.3%）となった。主な要因としては、国等の委託事業の受注増加（12,355千円）と自主事業（助成事業含）の増加（18,870千円）が挙げられる。委託事業増減の内訳は、文部科学省(11,513千円)、JST(1,822千円)である。また、事業収入の内訳としては国等の受託事業が約7割を占めている。自主事業（助成事業含）は、約3割と昨年度と比較し、11%増となった。令和3年度の事業収入内訳は「図表II.1-1」のとおりである。



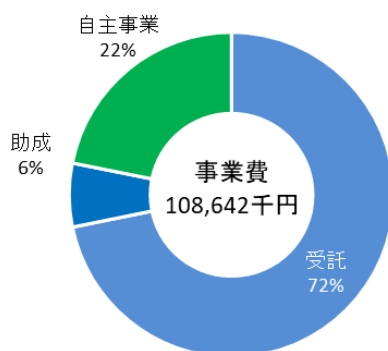
令和元年(2019年度) 事業収入内訳



令和2年度(2020年度) 事業収入内訳



令和3年度(2021年度) 事業収入内訳



図表 II.1-1 令和3年度事業収入内訳書

令和3年度 事業収入内訳書

単位:円

	委託元等	PI名	金額	備考
公1	文部科学省	2021コア技術モデル	38,940,000	
	文部科学省	2021国研調査	10,491,278	
	科学技術振興機構(JST)	2021新技術説明会調査	1,400,000	
	渡辺記念会	2020渡辺下SDGs調査	1,034,266	助成額210万の内、前期 1,035,734円計上
	同上	2020渡辺自主調査	2,716,537	助成額300万の内、前期 283,463円計上
	同上	2021渡辺R3上期	3,000,000	
	国立大学法人高知大学他	2021海外大学調査	1,891,392	
小 計			59,473,473	
	委託元等	PI名	金額	備考
公2	科学技術振興機構(JST)	2021目利き	25,739,445	契約金額27,378,859円
	芳心会	2021芳心会助成	1,000,000	
	東京応化財団	2021応化財団助成	1,000,000	
	セコム財団	2020セコム下期	103,588	助成額100万の内前期 896,412円計上
		2021セコム上期	586,355	助成額100万の内当期 経費計上分(5月末経費計 上繰込)
	自主事業	2021リーダー研究会	15,139,300	
		朝食交流会他	3,093,513	
小 計			46,662,206	
合 計			106,135,679	

注) 令和3年度の事業収入は、当該合計金額に賛助会費を加えた数値となる。

今後は、昨年度に続き、地域の産業に資するエコシステム形成支援のため、3～5年と継続する委託案件を安定して支援できるよう社外とのアライアンス構築も含めて体制を維持し、科学技術による社会的価値の向上や地域課題解決等に向けた公募事業に挑戦する。

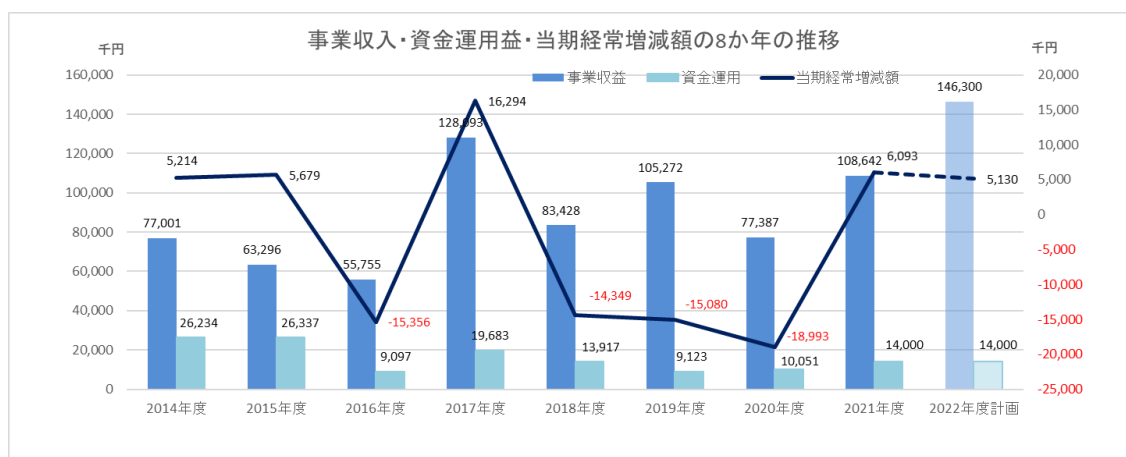
一方、図表 II.1-2 に示すとおり、7億円の基本財産を原資とした資金運用からの収益が見込めない現状にあって、社会情勢の変化をチャンスと捉えて、一般競争による公募事業のみ

ならず、公益性を担保しながらも収益性のある自主事業（助成事業含）に注力し、令和3年度は3割となった。自主事業については、全体の全体の5割を目指し、継続して展開を図るものとする。

令和3年度は、新規賛助会員の獲得とSDGs・ESG経営を意識したイノベーションの技術開発型企業へのサービス事業を地域と連携しながら実施した。SDGs達成のための課題解決に向けた活動を大きく展開するため、令和3年度は新たに人員1名を増員・配置し、自主事業を拡張した。とくにSDGsを指向する企業の優先課題である地球温暖化、大量生産・大量廃棄物、エネルギーの3つにテーマに着目し、課題設定のためのオープンイノベーション研究会、人材育成研修会等の開催、およびSDGsを標榜する大学との産学連携のマッチングを図った。

また、コロナ禍にあつて、2020年12月に全国の地方自治体に対して実施した「新型コロナウイルス感染防止に向けた対策と対応」に関する調査の結果（47都道府県・20政令指定都市）を受けて、「新型コロナウイルスと新たな社会のしくみ」について、ワークショップを継続して実施し、早期のコロナ収束とアフターコロナの新たな社会について検討した。

図表 II.1-2 事業収入・資金運用益・当期経常増減額の8か年の推移



## 2) 事業の概要

令和3年度は自主事業として、地域の科学・技術・産業振興を推進し、SDGs課題解決の一助とすべく「地域を活かす科学技術政策研修会」をオンライン開催した。また、賛助会員サービスとして、朝食交流会等を実施した。また「令和3年度 科学・技術・産業振興関係者名簿」を作成し、関係者へ配付した。

一方、受託事業は、科学技術振興機構（JST）より全国の産学連携従事者を対象とした「技術移転に係わる目利き人材育成プログラムの運営」を継続して受託し、実施した。また、文部科学省の受託案件としては、「地域イノベーション・エコシステム形成プログラム」の事務局（文科省）支援業務である「コア技術に基づくインパクトある成功モデル創出に向けた施策のあり方に関する調査」を令和2年度に引き続き受託し、実施した。

その他、一般財団法人新技術振興渡辺記念会の助成事業として「SDGs達成に向けたデータベース構築のための大学等研究成果の調査」及び「新型コロナウイルスに対する地域の特色ある取組(新たな社会のあり方等)に関する調査」を実施した。また、自主事業として「線状降水帯による集中豪雨（極端気象）災害の低減可能性に関する調査」を実施した。

## 2. 自主事業

### 1) 第 29 回 地域を活かす科学技術政策研修会の開催

[https://www.jarec.or.jp/29th\\_jarec\\_symposium/index.html](https://www.jarec.or.jp/29th_jarec_symposium/index.html)

担当：総括主任研究員 鈴木 久美子

主任研究員 大門 雅明 同 小澤 昌之 同 木村 徳孝

第 29 回地域を活かす科学技術政策研修会は、「新たな高度マテリアルリサイクルの形成に向けた取り組み」のテーマのもと、大学・国研等研究機関・地方自治体・公益法人、企業等における研究者および産学官連携従事者を対象にオンラインにて開催し、262 名の参加があった。開催にあたっては、セコム科学技術振興財団の「学術集会および科学技術振興事業助成」を得るとともに、内閣府科学技術・イノベーション推進事務局のご後援をいただいた。

第 I 部では、令和 4 年度の科学技術・産業振興施策やコロナ禍を踏まえた特色ある地域拠点形成のための施策について各府省庁より紹介した。また、第 II 部では、産学官連携によって難処理プラスチック容器等の新たなリサイクルプロセス提唱とその社会実装実現を目指し、廃棄物を製品の原材料として再利用する「高度マテリアルリサイクル」に必要な技術革新とそれを実現するプラットフォーム構築を目指した。基調講演では、高度マテリアルリサイクルに取り組む企業からご講演をいただき、研修会には、262 名が参加した。

今後は各種助成を受けながら、引き続き高度マテリアルリサイクル社会の実現に向けた活動について研修会やシンポジウムを開催していく。令和 4 年度は 2 回のシンポジウム開催を予定している。

### 2) 令和 3 年度科学・技術・産業振興担当者名簿の作成

<https://www.jarec.or.jp/project/project04.html>

担当：主任研究員 小澤 昌之

地域の科学技術振興に係る担当者間のネットワーク強化を図るべく、地域の科学技術振興に関わる担当者名簿を地方自治体と府省庁の関係者の協力を得て作成し配付した。広域での連携事業や機関を跨いでのネットワーク構築に活用されている。

### 3) JAREC の賛助会員へのサービス事業 2,010,000 円

<https://www.jarec.or.jp/topics/topics00/topics00-01.html>

担当：主任研究員 木村 徳孝

賛助会員への科学技術情報の提供（理研・JST・NEDO の定期刊行物/JAREC 調査資料他）及び朝食交流会等への優待。法人賛助会員 43 社他（2021 年 3 月末）

### 4) イノベーションを牽引する創造型企業の経営幹部による朝食交流会事業 3,278,000 円

<https://www.jarec.or.jp/topics/topics00/topics00-02.html>

担当：主任研究員 木村 徳孝 同 齊藤 太郎 同 大門 雅明

革新的な製品やサービスの実現を指向する創造型企業の経営幹部を対象に、朝食交流会を実施した。2021 年度は 12 回開催し、23 法人の参加があった。参加企業間での連携も生まれ実質的なネットワーク形成の場となった。終了時のアンケートの結果、萌芽技術の現状を俯瞰するプログラムが好評であることから、具体的な要望をもとに次年度のプログラム案を策定した。

### 3. 調査・研究事業

#### 1) SDGs 達成に向けたデータベース構築のための大学等研究成果の調査

【助成元】一般財団法人新技術振興渡辺記念会 R2 年度下期 2,000,000 円（継続調査）

担当： 総括主任研究員 久留島守広（中心研究者）同 鈴木 久美子  
副主任研究員 小澤 昌之 特定研究員 高橋 富男

SDGs 達成を指向する企業では、本業を通じた新たなアライアンス形成が課題となっている。本調査は地域の社会課題や SDGs 達成に資する大学等の研究成果に関する情報を一元化し、これらの企業への活用を促進することで、SDGs の社会実装の加速を目指すことをねらいに実施した。調査の結果、企業と大学のマッチングに向けて研究成果の質と量を確保しながら、より多くの大学が参加しやすい仕組みを構築する必要があることが分かった。

（2021 年 9 月調査終了）

#### 2) 線状降水帯等による集中豪雨（極端気象）災害の低減可能性に関する調査（継続調査）

【助成元】一般財団法人新技術振興渡辺記念会 R2 年度 3,000,000 円

担当：総括主任研究員 中崎 正好※（中心研究者）同 鈴木 久美子  
※2021 年 4 月より特定研究員（客員研究員）

本調査は、地域の自治体の枠を超えた共通の危機管理上の課題として、「線状降水帯等による集中豪雨（極端気象）災害の低減可能性」を多くの自治体やそこに存在する民間企業がこれまでの災害の教訓から学び、減災に向けて共有化を図っていく場を提供した。

（2021 年 11 月調査終了）

#### 3) 新型コロナウイルスに対する地域の特色ある取組(新たな社会のあり方等)に関する調査

【助成元】一般財団法人新技術振興渡辺記念会 H3 年度上期 3,000,000 円（新規調査）

担当：主任研究員 小澤 昌之（中心研究者） 総括主任研究員 鈴木 久美子

本調査は、長期化するコロナ禍にあって、レジリエンスな社会の構築に資するため、コロナ感染防止に向けた地域独自の対応と広域的に連携・協力できる事柄及びアフターコロナ社会を見据えた取組を調査し、新たな社会のあり方と未来への教訓として整理する。

（2022 年 3 月終了）

#### 4) オランダワーヘニンゲン大学等の取組みに関する調査

【発注元】国立大学法人高知大学 受注金額 994,620 円

担当： 総括主任研究員 鈴木久美子

農業分野で世界的な競争優位性を有するオランダワーヘニンゲン大学における施設園芸農業分野に関する DX の教育研究、産学官民連携、ベンチャー等ビジネス展開、施設園芸分野の GX（グリーントランスフォーメーション）等の特徴を明らかにし、高知大学 IoP 共創センターが掲げるビジョン・ミッションを実現するためのマスタープラン、および戦略企画アクションプラン策定に資することを目的とした調査を実施した。

#### 5) 高度マテリアルリサイクルに関するコア技術検討

【発注元】非公開 受注金額 1,028,500 円

担当： 総括主任研究員 鈴木 久美子 他 特定研究員 2 名

高度マテリアルリサイクルに関するコア技術の性能検証への実験指導を実施した。当該コア技術は、SDGs 大量消費・大量廃棄に直結する廃プラスチックの処理問題を新たな高度マテリアルリサイクルを創出するものであり、高度マテリアルリサイクル構築に向けた活動の一環として実施した。

6) 新技術説明会発表課題に係る調査業務

【発注元】 国立研究開発法人科学技術振興機構 受注金額 1,400,000 円

担当： 主任研究員 小澤 昌之

本調査は、新技術説明会で発表された課題について、発表後の技術移転、実用化の進展状況を把握し、技術シーズの製品化・企業化事例等についてヒアリングを行い、新技術説明会の果たした役割・効果を把握し、成果事例として広く発信するための情報収集を目的とする。

7) コア技術に基づくインパクトある成功モデル創出に向けた施策のあり方に関する調査

【委託元】 文部科学省 受託金額 38,940,000 円

担当： 総括主任研究員 鈴木 久美子

副主任研究員 木村 徳孝 同 大門 雅明 同 小澤 昌之

特定研究員 佐藤一雄（第一三共株式会社元顧問/執行役員戦略本部知的財産部長）

同 大久保 惇（佐賀大学産学官連携機構元客員教授/久光製薬株式会社勤務）

同 平本 廣幸（スタンレー電気株式会社元新規事業開発室室長）

同 細沼 信行（旭化成株式会社元アクリル樹脂開発技術部部长）

同 高岡 勉（福井大学知的財産部元専門職員/株式会社クボタ勤務）

同 栗本 忠（慶応義塾大学先端生命研究所元専門員/ゼリヤ新薬工業(株) 勤務）

同 福井 信義（日立製作所日立工場元システム LSI 半導体センター長）

同 常谷 正己（旭化成株式会社元研究副部長）

同 薄井 末男（日本鋼管株式会社エネルギー部元省エネルギー技術開発担当）

同 高橋 富男（住友金属鉱山株式会社 R&D マネジメント, 新規事業関連元役員）

同 須佐 太樹（HITS プロモーター合同会社 代表社員）

同 小林 真由実（全日本科学技術協会 元総務課長/東京銀行勤務）

同 鈴木 虎夫（国立研究開発法人科学技術振興機構 元調査員/財務省勤務）

総務課長 鶴見 正幸

派遣調査員 1 名

文部科学省が地域イノベーション・エコシステム構築支援のため平成 28 年度より実施している「地域イノベーション・エコシステム形成プログラム」の事務局支援を受託し、実施した。全 21 拠点の現地モニタリング支援、及び額の確定を行った。

また、令和 3 年度は、終了評価調査委員会を設置し、平成 29 年度採択 10 拠点（川崎地域・福井地域・山梨地域・長野地域・三重地域・神戸地域・山口地域・香川地域・愛媛地域・熊本地域）の終了評価調査を実施した。

地域で成功モデルを創出するための各地域間の効果的な資源配分調整の方法や問題点及び改善点を抽出し、必要な分析・考察を加え最適なプログラムのあり方の検討に資する調査

分析結果を成果報告書として提出した。

(参照 URL) 文部科学省ホームページ

[https://www.mext.go.jp/content/20200117-mxt\\_sanchi01-1413151\\_00001\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20200117-mxt_sanchi01-1413151_00001_1.pdf)

#### 7) 国立研究開発法人による民間企業等との産業連携実施状況に関する調査

【委託元】文部科学省 受託金額 10,491,278 円

担当：総括主任研究員 鈴木 久美子

主任研究員 小澤 昌之

特定研究員 高橋 富男 (元東北大学産学官連携推進本部副本部長・客員教授)

同 佐藤 一雄 (第一三共株式会社元顧問/執行役員戦略本部知的財産部長)

同 福井 信義 (日立製作所日立工場元システム LSI 半導体センター長)

同 中崎 正好 (全日本科学技術協会元常務理事)

同 吉野 仁之 (Japan IP Network 株式会社 代表取締役社長)

総務課長 鶴見 正幸

第6期科学技術・イノベーション基本計画(令和3年3月26日閣議決定)においては、創出された知をイノベーションに活かす仕組みを構築することが重要であり、産学連携の高度化など産学を緊密に連携させる仕組みが求められるとしている。本調査では、国内外の大学・研究機関の取組状況を文献調査・アンケート調査及びヒアリング調査を実施し、有識者とともに、我が国の国立研究開発法人(文部科学省所管8機関)に求められる産業連携機能について調査・検討を行った。

#### 4. 研修会・研究会事業

##### 1) 2021年度技術移転に係わる目利き人材育成プログラムの運営

(バリュープロデュースコース、研究推進マネジメントコース、起業環境整備支援コース)一式

【委託元】国立研究開発法人科学技術振興機構(JST) 受託金額 25,739,445 円

担当：主任研究員 大門 雅明

総括主任研究員 鈴木 久美子 同 木村 徳孝

総務課長 鶴見 正幸 派遣調査員 1名

科学技術振興機構(JST)では、大学等の研究成果をもとにビジネスをプロデュースできる人材の育成をめざしている。JSTより委託を受けて、大学・公的研究機関、民間企業等の産学連携に従事する人材を対象に、大学等の研究成果の社会還元を効果的に進めるための研修会を企画し、実施した。

2021年度のバリュープロデュースコースでは、「自発的な瞬き」を研究テーマとしている中野 珠実准教授(大阪大学大学院生命機能研究科)の研究成果をケース事例に研究者参加のもと検討を行った。

研究成果の付加価値の最大化と潜在的市場を検討するなか、多様なアプリケーションが創出された。終盤の事業化シナリオにおいては、これらのアプリケーションについてロー

ドマッピングを行い、ビジネスモデルを形成する具体的なアライアンスが示された。事後アンケートから受講者の満足度は9割を超える高い結果となっている。

2) 「新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた地域プラットフォーム形成シンポジウム」  
ワークショップの開催

【助成元】公益財団法人東京応化科学技術振興財団 1,000,000 円

担当：主任研究員 小澤 昌之 同 大門 雅明

[https://www.jarec.or.jp/jarec\\_workshop\\_covid19\\_v2/index.html](https://www.jarec.or.jp/jarec_workshop_covid19_v2/index.html)

本ワークショップは、保健所や地方衛生研究所など、コロナ感染拡大防止に向けてご活動されている皆様を対象に、ウイルスに対する治療対策、感染経路の不確実性の除去・低減の事例、感染防止に役立つ研究開発事例など、新型コロナウイルス感染拡大防止に取り組んでいる事例を紹介した。ワークショップは令和3年度において4回開催し、延べ206名の参加があった。今後も各種助成を受けながらワークショップの開催を予定している。

3) 「SDG パートナーシップ・プログラム」シンポジウムの開催

【助成元】一般社団法人芳心会 1,000,000 円

担当：主任研究員 小澤 昌之 同 齋藤 太郎 同 木村 徳孝

<https://www.jarec.or.jp/sdgs/index.html>

JAREC は、SDGs 達成を目指した大学等の優れた成果を企業や自治体の皆さまへご紹介する「SDGs パートナーシップ・プログラム」を立ち上げた。各大学からご提供いただいた研究成果を皆さまにご紹介する機会として、令和3年度は「SDGs パートナーシップ・プログラム」シンポジウムを2回開催し、延べ80名の参加があった。今後も各種助成を受けながら「SDGs パートナーシップ・プログラム」シンポジウムの開催を予定している。

以 上